

Kansai Economic Insight Monthly

2015/12/22

Vol.32 November/December

・APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・レポート公開時期は毎月第3週金曜日を予定しています。

・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、林万平・木下祐輔・James Brady（各APIR 研究員）です。

・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
関空モニター	8
中国景気モニター	10
主要月次統計	13
Release Calendar	14

要旨

- ✓ 10月の鉱工業生産指数は2カ月連続の上昇。10-12月期の始めとしては良いスタートとなった。
- ✓ 11月の輸入は、原油価格の下落もあり、3カ月連続の前年比マイナスだが、輸出は中国経済の減速もあり、2カ月連続の同マイナスとなった。結果、貿易収支は9カ月ぶりの赤字。
- ✓ 11月の消費者態度指数は2カ月連続の改善となったが、景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は5カ月連続の悪化。加えて、先行き見通しは、中国経済減速への懸念、クリスマス・年末商戦への期待低下から3カ月ぶりに悪化。
- ✓ 8月の関西2府4県の現金給与総額は前月から横ばい。9月の「関西コア」賃金指数は3カ月連続のプラスとなっており、賃金は緩やかな回復が続いている。
- ✓ 10月の大型小売店販売額は7カ月連続の前年比プラス。好天に恵まれたこともあり、小売消費は好調を維持。
- ✓ 10月の新設住宅着工戸数は前年比増加し、3カ月ぶりの大幅プラス。11月関西のマンション契約率も3カ月ぶりの70%超。
- ✓ 10月の有効求人倍率は横ばい。完全失業率は7カ月ぶりの改善。就業者数の増加がみられ、雇用情勢は堅調である。
- ✓ 11月の公共工事請負金額は5カ月連続で前年比マイナス。10月の建設工事は2カ月連続の同マイナス。公共工事の減速もあり、建設工事は停滞している。
- ✓ 11月の関空への訪日外客数は前年比+46.9%と34カ月連続のプラスだが、伸びは前月から引き続き減速。地域別に見ると、9月の関空への訪日外客数は、ピークの7月からは減少したが、引き続き上昇トレンドが続いている。
- ✓ 中国11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は3カ月ぶりに前月から悪化し、4カ月連続で50を下回っている。一方、非製造業購買担当者景況指数は4カ月ぶりに前月から改善した。

【関西経済のトレンド】

	2014年		2015年										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↗	
貿易	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘
センチメント	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘
消費	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
住宅	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗
中国	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗

【鉱工業生産動向】

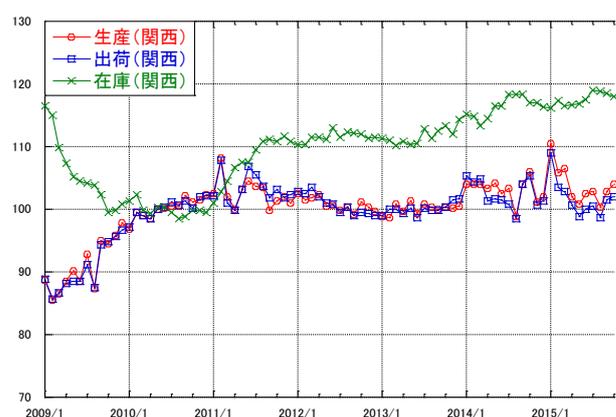
(1) 関西の生産動向

10月の鉱工業指数(確報値:季節調整済)を見ると、生産は104.1で前月比+1.3%、出荷は102.1で同+0.5%といずれも2カ月連続の増加。一方、在庫は118.1で同-0.4%と2カ月ぶりの下落となった。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同+8.1%, 4カ月ぶり)、情報通信機械(同+13.2%, 2カ月ぶり)、輸送機械(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)(同+2.8%, 3カ月連続)等が増産となった。一方、電気機械(同-7.3%, 3カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同-8.1%, 4カ月ぶり)、化学(同-2.1%, 2カ月ぶり)等が減産となった。

足下、生産は増加し、10-12月期の始めとしては良いスタートとなった。ただし、11月の実質輸出がマイナスであることから生産の減少が予想される点に注意が必要である。

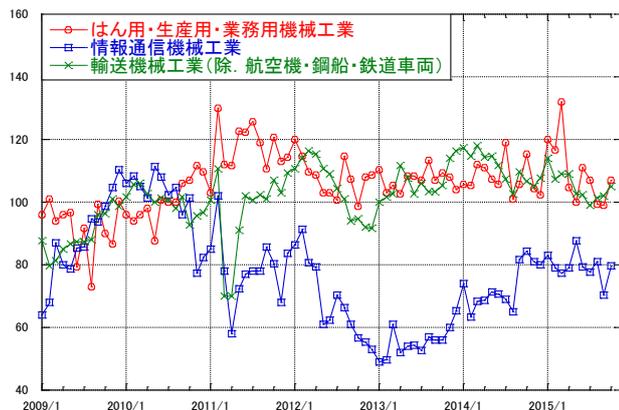
鉱工業指数の推移(関西: 2015年10月まで、平成22年=100)



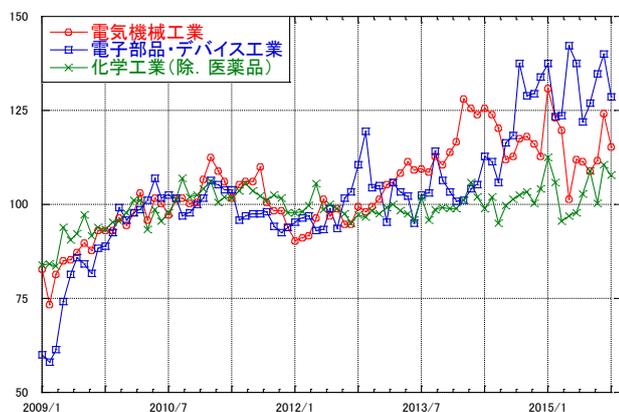
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西：2015年10月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移 (続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

(2) 全国の生産動向

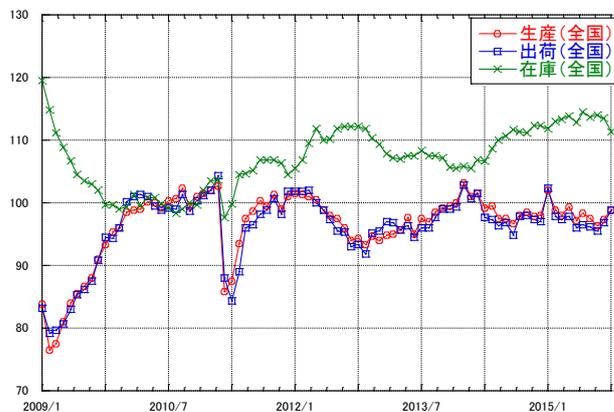
全国における10月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.8となり前月比+1.4%、出荷は98.8で同+2.1%といずれも2カ月連続の上昇。一方、在庫は111.4で同-1.9%と2カ月連続の下落となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+5.5%)、輸送機械(同+3.8%)、電子部品・デバイス(同+2.4%)等を中心に増産となった。一方、化学(同-1.4%)、情報通信機械(同-3.5%)、非鉄金属(同-2.6%)等は減産となった。

速報の製造工業生産予測調査によれば、11月は同+0.2%の増産だが、12月は-0.9%の減産となっている。もし、予

測と同様に鉱工業生産指数が推移すれば、10-12月期は前期比+1.6%の増産と3期ぶりのプラスとなる。

鉱工業指数の推移(全国：2015年10月まで、平成22年=100)



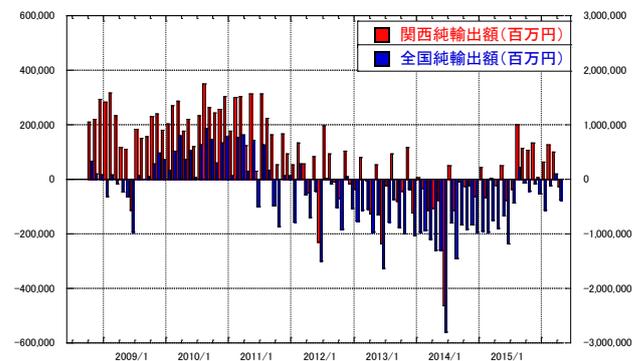
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、11月関西の貿易収支は-273億円と9カ月ぶりの赤字となり、赤字幅は前年同月比+23.0%拡大した。全国の貿易収支(速報値)も-3,797億円と2カ月ぶりの赤字となったが、赤字幅は前年同月から-57.8%縮小した。

貿易収支(百万円)：関西(左軸)・全国(右軸)推移(2015年11月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

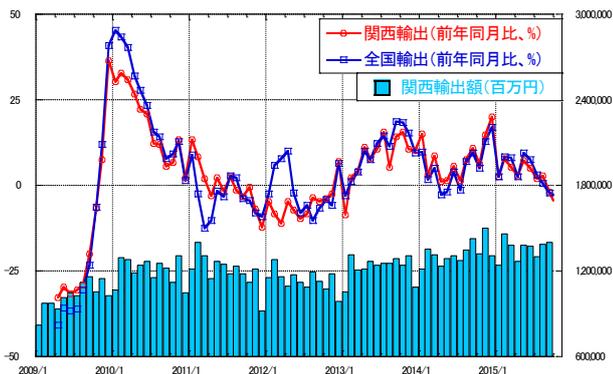
(2) 輸出

関西 11 月の輸出額(速報値)は 1 兆 2,369 億円。前年同月比-6.5%と 2 カ月連続の減少。財別に見れば、半導体等電子部品、鉄鋼の輸出が減少した。一方、通信機(単月過去最高額)、半導体等製造装置は増加した。

全国 11 月の輸出額(速報値)は 5 兆 9,814 億円、前年同月比-3.3%と 2 カ月連続の減少。財別に見れば、鉄鋼、有機化合物、鉱物性燃料の輸出が減少した。一方、自動車は増加した。

なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は 121.34 円と前年同月比-8.9%の円安であった。昨年 11 月初めの日銀による量的緩和の実施から 1 年が経過し、通貨安を通じた輸出額の増加の効果が剥落してきている。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2015 年 11 月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

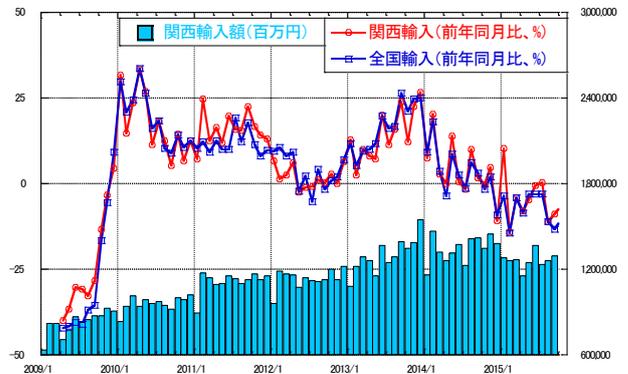
(3) 輸入

関西 11 月の輸入額(速報値)は 1 兆 2,642 億円、伸びは前年同月比-6.0%と 3 カ月連続の減少。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、通信機が減少した。一方、医薬品(過去最高額)、半導体等製造装置(単月過去最高額)は増加となった。

全国 11 月の輸入額(速報値)は 6 兆 3,611 億円、前年同月比-10.2%と 11 カ月連続の減少。財別に見れば、原油、液化天然ガス、通信機等の輸入が減少している。一方、医薬品は増加となった。

前年比の円安効果の薄まりと、資源価格の大幅減少により輸入額は関西、全国ともマイナスとなった。

輸入(右、100 万円)・前年同月比(左、%)推移(2015 年 11 月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

関西 11 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+1,110 億円となり、22 カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月比+15.9%と、3 カ月連続で拡大した。輸出は 15 カ月ぶりの減少(同-6.6%)。財別に見れば、通信機、半導体等製造装置等は増加したものの、鉄鋼、鉱物性燃料は減少した。輸入は 3 カ月連続の減少(同-9.2%)。財別に見ると、通信機、天然ガス及び製造ガス等が減少した。

うち、対中貿易収支は-1,197 億円と 45 カ月連続の赤字も、赤字幅は 3 カ月連続で前年同月から縮小(同-17.1%)。輸出は 2 カ月連続で減少(同-6.4%)。輸入は 3 カ月連続の減少(同-9.7%)となった。

対米貿易収支は+593 億円と黒字基調が続いているが、黒字幅 24 カ月連続で前年から縮小した(同-16.5%)。うち、輸出は 18 カ月ぶりのマイナス(同-1.1%)。財別に見れば、建設用・鉱山用機械、電池等が増減少した。輸入は 4 カ月連続の増加(同+10.2%)であり、財別に見れば、医薬品、半導体等製造装置等が増加した。

対 EU 貿易収支は-289 億円と 2 カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月から 331 億円拡大した。輸出は 2 カ月連

続の減少(同-6.0%)。財別に見れば、科学光学機器、有機化合物等が減少した。輸入は2カ月連続の増加(同+20.6%)。財別に見れば、医薬品、有機化合物等が増加した。

【消費者センチメント】

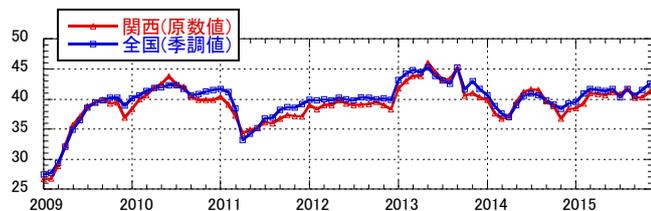
(1) 消費者態度指数の動向

関西の11月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.0ポイントの41.3と改善。2カ月連続のプラス。全国(季節調整値)でも同+1.1ポイントの42.6とこちらも2カ月連続の改善。株式相場の上昇や生鮮野菜等の値下がりが寄与したとみられる。これを受けて、内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」へと8カ月ぶりに上方修正した。

関西では同指数の4つの意識指標のうち、全ての項目で上昇した。構成項目をみると、「暮らし向き」と「収入の増え方」がいずれも同+1.6ポイントの改善(いずれも3カ月ぶり)。

「耐久消費財の買い時判断」が同+0.5ポイントの改善(2カ月連続)、「雇用環境」は同+0.3ポイント改善した。消費者心理は改善傾向にある。

消費者態度指数(2015年11月まで)



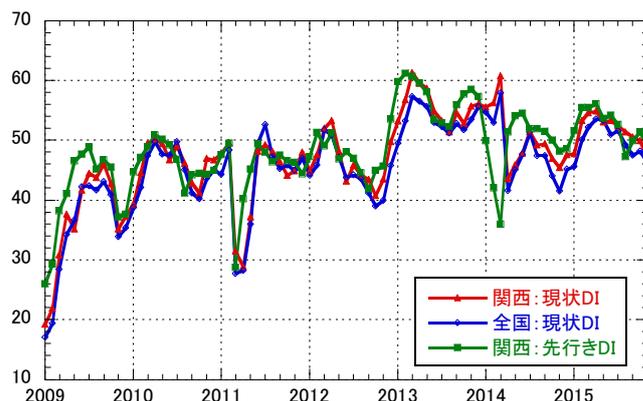
(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の11月の現状判断DIは前月比-3.1ポイント低下の46.8となり、5カ月連続の悪化。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を2カ月連続で下回った。気温が例年よりも高く、季節商品の売れ行きに影響が出たことや、中国経済の減速による影響、インバウンド関連の減速などが悪化に寄与した。全国も同-2.1ポイント低下し46.1となり、2カ月ぶりの下落。判断の分かれ目となる50を4カ月連続で下回った。

一方、先行き判断DIは、関西では48.7と前月比-2.7ポイント低下し、3カ月ぶりの下落。暖冬予想による冬物の売れ行きへの不安、中国経済減速への懸念、クリスマス・年末商戦の盛り上がりに対する期待の低下が先行き見通しを押し下げた。

景気ウォッチャー調査(2015年11月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

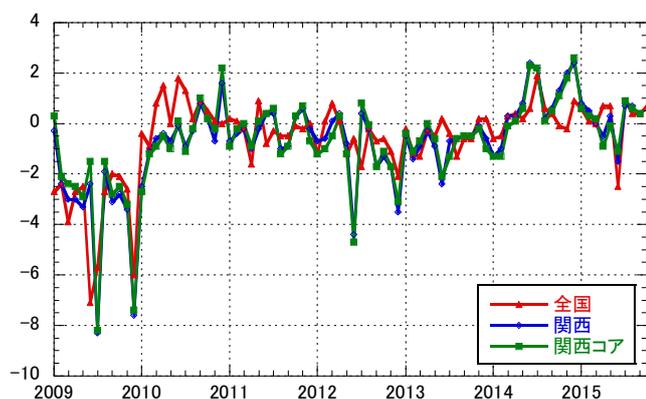
(1) 現金給与総額

8月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は26万6,279円で前年同月比+0.7%と前月から横ばい。府県別では、全ての府県で前年比プラス。奈良県が同+2.6%(3カ月ぶり)、和歌山県が同+2.0%(2カ月連続)、兵庫県が同+0.8%(3カ月連続)、滋賀県が同+0.6%(4カ月ぶり)、大阪府が同+0.5%(3カ月ぶり)、京都府が同+0.4%(2カ月連続)のプラスであった。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関

西コア」賃金指数(APIR 推計)は9月に前年同月比+1.2%となり、3カ月連続のプラス(前月:同+0.6%)となっており、賃金は緩やかな回復が続いている。

現金給与総額(前年同月比: %、2015年10月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

全国(速報値)の現金給与総額をみると、10月は前年同月比+0.7%と4カ月連続のプラス。内訳をみると、所定内給与は同+0.1%と小幅上昇(8カ月連続のプラス)、所定外給与は同+1.2%と4カ月連続の上昇。特別給与は同+23.9%と4カ月連続のプラス。特別給与の大幅増加が賃金を押し上げた。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同+0.4%と、4カ月連続のプラスとなっており、緩やかな増加がみられる。

(2) 大型小売店販売額

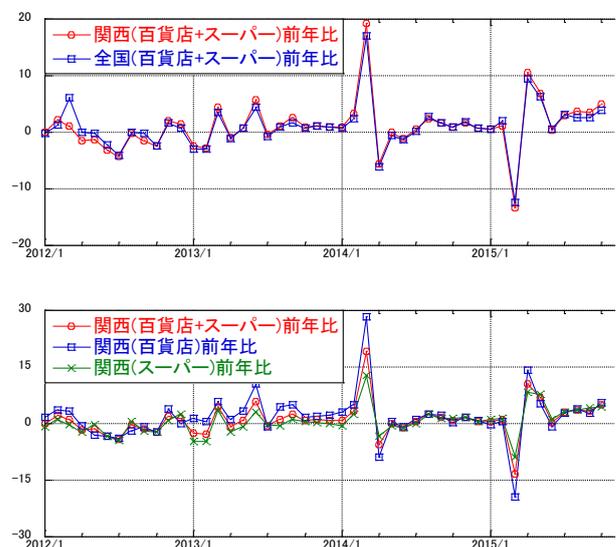
関西10月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+5.0%と7カ月連続のプラス。百貨店は同+5.7%と4カ月連続のプラス。スーパーは同+4.5%と7カ月連続のプラス。

全国10月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+4.0%と7カ月連続のプラスとなっている。

大型小売店販売額は、好天に恵まれたこともあり、小売

消費は10月も好調を維持している。

大型小売店販売額(前年同月比: %、2015年10月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

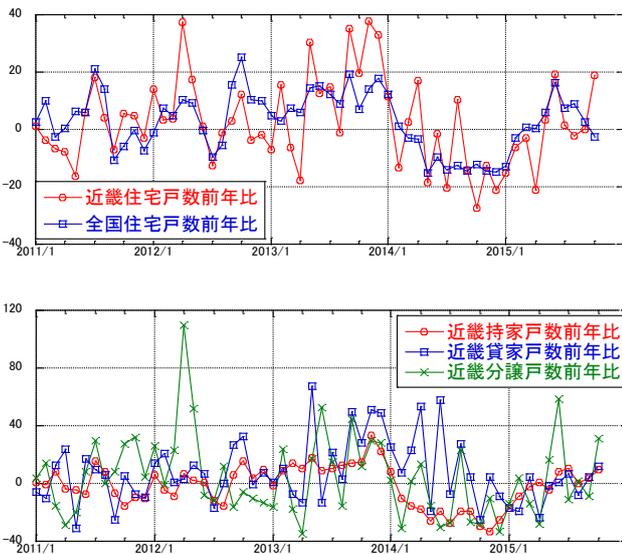
(3) 新設住宅着工の動向

関西10月の新設住宅着工戸数は12,872戸。前年同月比+19.0%と大幅増加し、3カ月ぶりのプラス。全国は77,153戸と同-2.5%減少し、8カ月ぶりのマイナス。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,149戸。同+10.0%と5カ月連続の増加。貸家は4,941戸、同+11.8%と2カ月連続のプラス。分譲は4,503戸、同+31.4%増加し、2カ月ぶりの大幅プラス。

11月の関西マンション契約率は70.8%(季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安となる70%を3カ月ぶりに上回った。一方、首都圏は85.5%(季節調整値、APIR 推計)と、引き続き前月(79.7%)から大きく上昇した。

新設住宅着工(前年同月比: %、2015年10月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

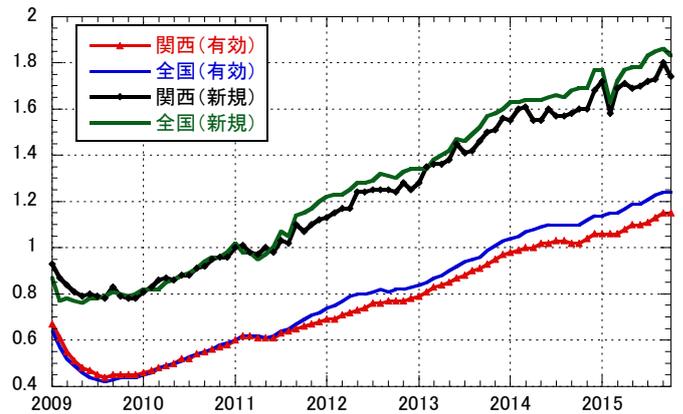
10月の関西の有効求人倍率は、1.15倍で前月比横ばい。1991年8月(1.15倍)に並ぶ高水準が続いている。全国は1.24倍でこちらも同横ばいとなった。雇用情勢は引き続き堅調である。

府県別では、全ての府県で3カ月連続の1倍台。滋賀県では前月比+0.02ポイント、大阪府・兵庫県では同+0.01ポイントの上昇。一方、京都府は横ばい、和歌山県は同-0.04ポイント、奈良県は同-0.02ポイント低下した。

10月の関西の新規求人倍率は、1.74倍と前月比-0.06ポイント低下。全国は1.83倍と同-0.03ポイント低下した。

関西の産業別新規求人数は、中国の国慶節休暇と重なったことなどから、宿泊・飲食サービス業(4カ月連続の2桁増)、卸売・小売、生活関連サービス等インバウンド関連産業を中心に増加。

有効求人倍率の推移(季節調整値、2015年10月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2015年10月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
10月	1.24	1.15	1.09	1.24	1.23	1.03	1.00	1.08
9月	1.24	1.15	1.07	1.24	1.22	1.02	1.02	1.12

(2) 完全失業率の推移

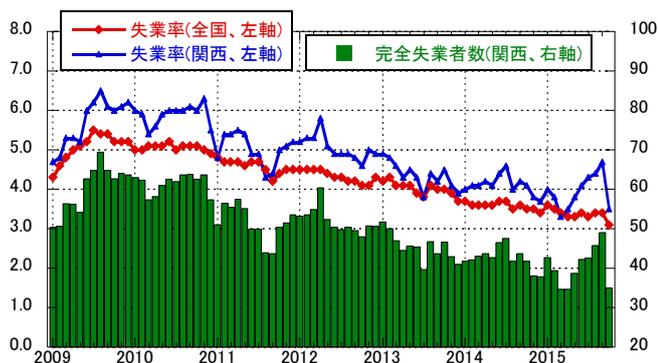
10月の関西の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は3.5%で前月(4.7%)から-1.2%ポイント大幅低下し、7カ月ぶりの改善。就業者数(季節調整値)が増加し、雇用拡大の動きがみられる。

関西の完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は35.0万人で前月から14万人減少した。7カ月ぶりのマイナス。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.1%と前月から-0.3ポイント低下し、3カ月ぶりの改善。1995年7月以来の低水準。完全失業者数(季節調整値)は206万人と前月比-22万人減少した。男女ともに失業者数は減少したが、非労働力人口の増加が背景にある。

15~64歳の就業率(原数値、全国ベース)は74.0%と、比較可能な1968年以降で最高となった。

完全失業率の推移 (季節調整値 : %, 万人、2015年10月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

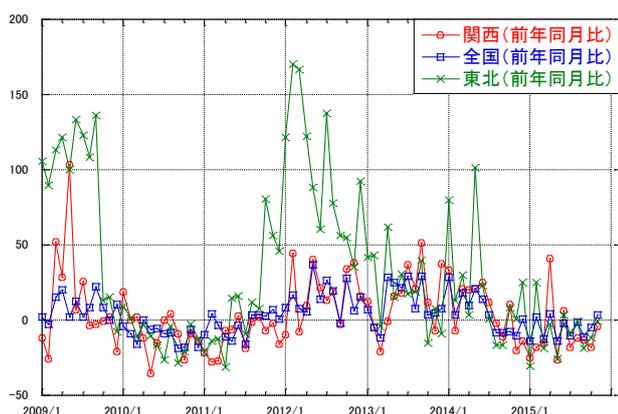
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西 11 月の公共工事請負金額は 854 億円で前年同月比 -3.9%と 5 カ月連続の減少も、マイナス幅は前月(同 -18.2%)から縮小した。全国は 8,720 億円で同+3.3%と 7 カ月ぶりのプラス。東北は 1,791 億円で同-0.6%と 5 カ月連続のマイナスとなった。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は 2 カ月ぶりに前月から減少、全国は 2 カ月連続の増加となった(関西 : 同 -11.5%、全国 : 同+3.9%)。

公共工事請負金額(前年同月比 : %, 2015年11月まで)



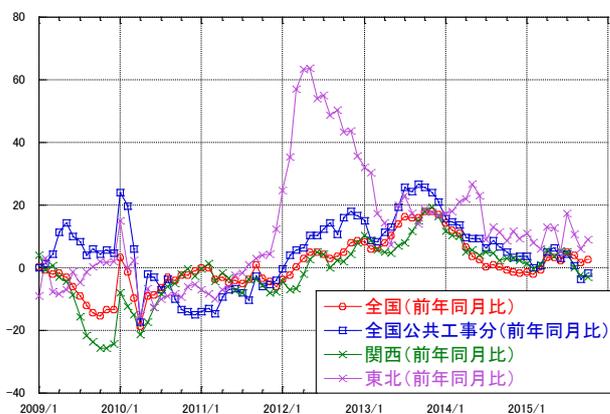
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西 10 月の建設工事は 5,407 億円、前年同月比-2.8%と 2 カ月連続で減少した。東北は 6,492 億円、同+8.9%と 51 カ月連続の増加。全国は 4 兆 6,423 億円となり、同+2.6%と 7 カ月連続の増加。うち、全国の公共工事は 2 兆 673 億円で同-1.5%と 2 カ月連続のマイナスとなった。

公共工事の減速トレンドが続いており、関西の建設工事もマイナスの伸びとなった。建設工事は停滞している。

建設工事(前年同月比 : %, 2015年10月まで)



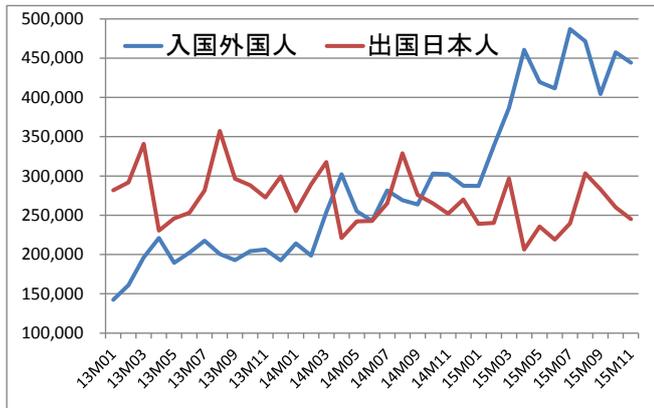
(出所) 国土交通省「建設総統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

11 の関空への訪日外客数は 44 万 4,070 人、前年同月比 +46.9%と 34 カ月連続のプラスとなったが、伸びは前月 (+50.9%)から引き続き減速した。出国日本人数は 24 万 5,000 人と同-2.8%と 2 カ月連続の減少となった。外国人旅客総合数(出国・入国含め)は 88 万 6,910 人(同+47.5%)となった。

訪日外客数と出国日本人数(2015年11月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

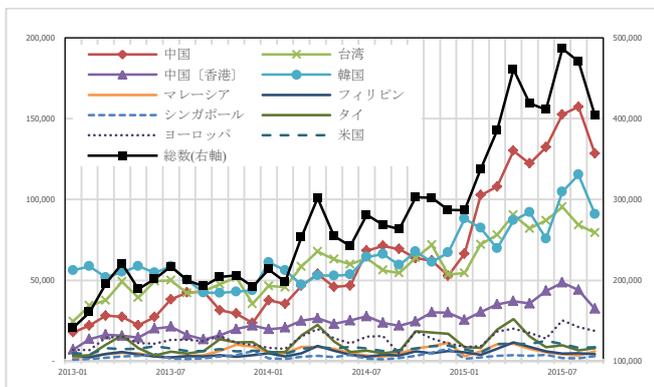
(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、9月はピークとなった7月から減少したが、引き続き上昇トレンドが続いている。9月には中国(香港を除く)からの入国者数が12万8,403人(前年同月比+85.1%)と最も多かった。次いで、韓国が9万958人(同+52.8%)、台湾が7万9,450人(同+45.6%)、中国(香港)が3万2,445人(同+47.7%)となった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイから8,066人(同+32.5%)。マレーシアからは6,253人(同+28.2%)、フィリピンからは4,469人(同+23.0%)、シンガポールからは3,251人(同+56.8%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパからは1万8,790人(同+285.1%)と12カ月連続のプラスになった。米国からは8,728人(同+24.2%)と13カ月連続のプラスであった。

地域別訪日外客数(2015年9月まで：人、右軸：総数、左軸：各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

(3) クローズアップ：来日中国人と爆買い

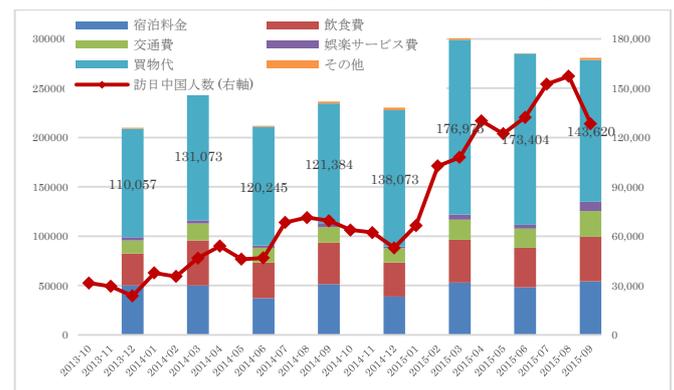
訪日外客数を国籍別に見ると、最近是中国(香港を除く)からの訪日外客数が最も多く、平均支出額(全国平均)も最も高い。2013年12月に2万3,644人となっていたが、2014年12月は5万2,930人まで増加している。その後も増加し、2015年8月には15万7,246人と加速している。

また、同時期における中国からの訪日外客数の平均支出総額(全国平均)をみると、20万9,899円から30万435円まで+43.1%増加している。ちなみに、直近の2015年7-9月期では28万787円であった。

中国人の支出の特徴は、宿泊代を比較的安く抑える一方で、買い物代が半分以上を占めることである。買い物で使う金額は2013年10-12月期に11万57円であったものが、2015年1-3月期には17万6,975円に増加(+60.8%)し、直近の2015年7-9月期は14万3,620円となった。

一方、最近では訪日客数も平均支出額もピークから若干減少しており、これは短期的な変動かトレンドの変化なのか明確ではない。

中国人の訪日人数と支出額(全国平均、単位：万円)



(出所) 観光庁「訪日外国人の消費動向」、法務省「出入国管理統計」

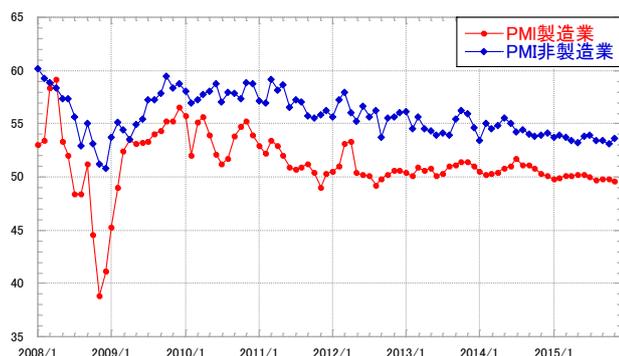
【中国景気モニター】

(1) センチメント

11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.6となり、前月から-0.2ポイント下落し、3カ月ぶりの悪化。また、4カ月連続で50を下回った。一方、非製造業購買担当者景況指数は53.6となり、前月から+0.5ポイント上昇。4カ月ぶりの改善。

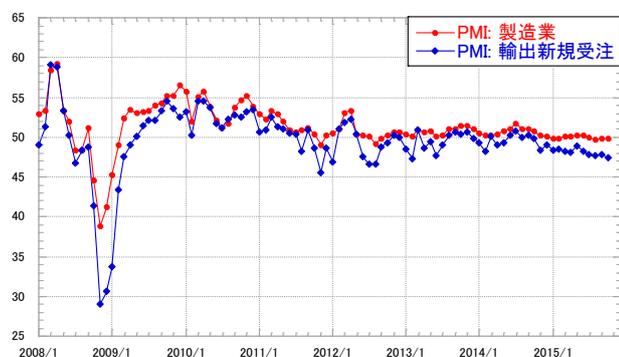
製造業のうち、生産指数は51.9となり、前月から-0.3ポイント下落し、2カ月連続の悪化。新規受注指数は49.8となり、同-0.5ポイント下落し、3カ月ぶりの悪化。また、輸出新規受注指数は46.4となり、同-1.0ポイントと大幅に下落。2012年8月(46.6)以来の低水準である。雇用指数は47.6となり、同-0.2ポイント下落。2カ月連続の悪化。

中国非製造業購買担当者景況指数(2015年11月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2015年11月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

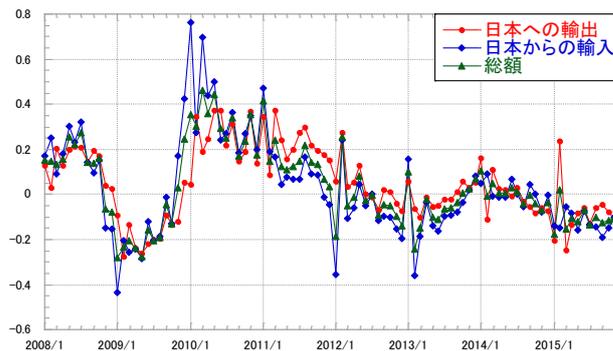
(2) 貿易動向

11月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-6.8%と5カ月連続のマイナス。輸入額は同-8.9%(速報値)と減少幅は前月(同-19.0%)より縮小したが、内需の低迷を反映し13カ月連続のマイナス。結果、貿易収支は+541億ドルとなり、21カ月連続の黒字となった。

うち、日本への輸出額は同-10.5%と9カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-10.3%と13カ月連続のマイナスとなった。

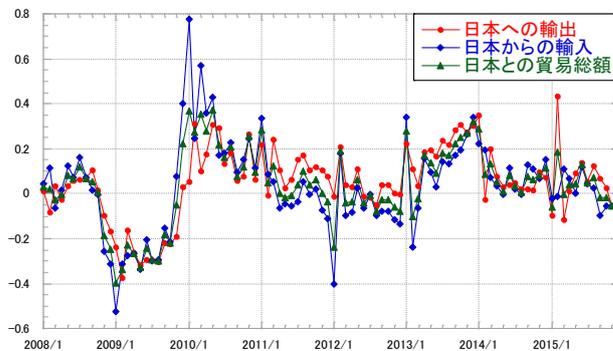
円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-5.6%となり、8カ月ぶりのマイナス。日本からの輸入額は同-5.4%、3カ月連続のマイナスとなった。

日本との貿易 (前年同月比:ドル・ベース) (2015年11月まで：%)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易 (前年同月比:円ベース) (2015年11月まで：%)



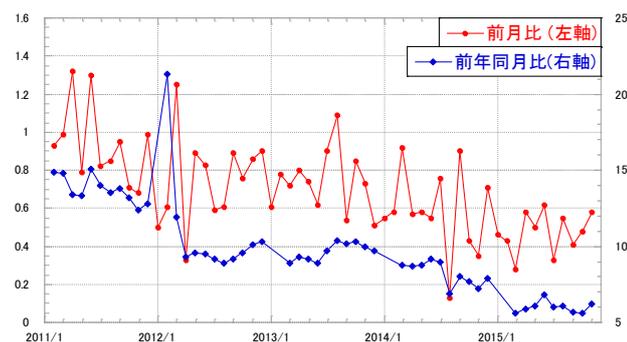
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

11月の工業生産は前月比+0.58%となり、前月から+0.1%ポイント上昇した。また、前年同月比は+6.2%となり、伸びは前月から+0.6%ポイントとなり3カ月ぶりのプラスとなった。

産業別に見ると、自動車製造業(同+13.0%)、有色金属圧延加工業(同+11.8%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+11.1%)、食品製造業(同+9.6%)等が高い伸びを示す一方で、鉄道・輸送機器製造業(同+2.6%)、通用設備製造業(同+2.5%)、専用設備製造業(+2.2%)、電力・熱力生産・供給業(同+1.2%)等は比較的低調な伸びにとどまった。注目すべき自動車製造業の伸びは前月(同+7.3%)に続き、2カ月連続の急上昇となった。

工業生産指数(2015年11月まで：%)



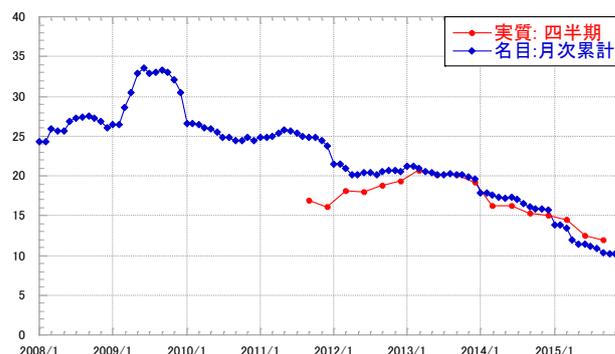
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-11月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.2%、前月(1-10月期:+10.2%)から横ばい。

産業別にみれば、第1次産業は同+28.7%、1-10月期(同+28.1%)より+0.6%ポイント増加。第2次産業は同+8.1%、1-10月期(同+8.0%)から+0.1%ポイント増加。第3次産業同+11.0%、1-10月期(同+11.0%)から横ばい。特に第2次産業と第3次産業の伸びは2015年以降、低水準が続いている。

固定資産投資 (2015年11月まで：%) (累積伸び率)

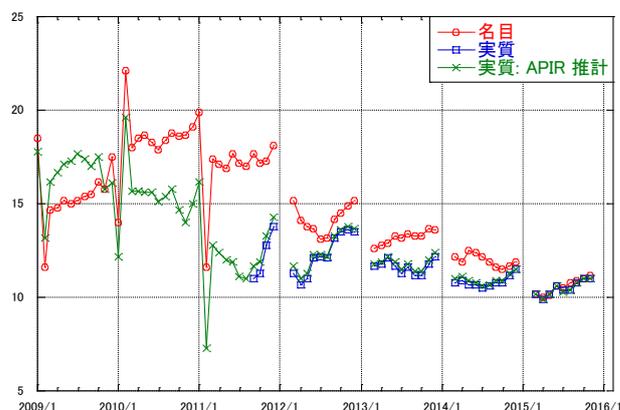


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

11月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.2%、前月(同+11.0%)から小幅上昇。緩やかだが、2015年4月(同+10.0%)から回復が見られる。

社会消費品小売総額 (2015年11月まで：%)



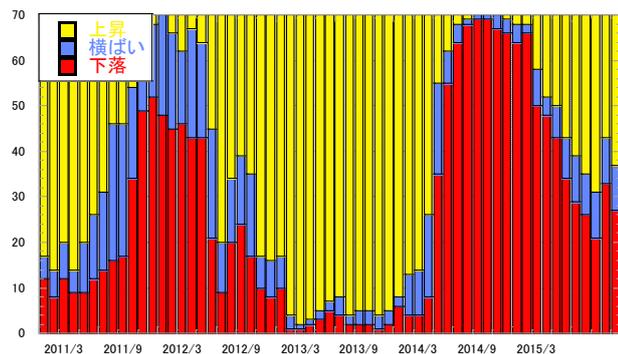
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 不動産市場

不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、11月は27都市で前月から下落した。33都市で同上昇、10都市で横ばいとなった。中国政府の政策効果により、価格上昇した都市の数は増加となった。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年11月まで：都市数)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	14/11M	14/12M	15/1M	15/2M	15/3M	15/4M	15/5M	15/6M	15/7M	15/8M	15/9M	15/10M	15/11M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9	46.8
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	43.2	48.2	47.4	52.3	54.1	55.0	53.4	53.6	51.2	50.4	50.8	49.5	44.2
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4	48.7
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2	46.1
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	39.5	44.2	43.9	48.4	50.9	53.2	53.6	50.4	50.8	48.8	47.0	48.1	44.4
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1	48.2
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	36.8	38.3	38.5	39.3	41.0	40.8	40.7	41.2	40.8	41.7	40.2	40.3	41.3
[関西]「暮らし向き」(原数値)	34.8	36.0	35.8	37.1	38.5	38.2	37.7	38.9	38.7	40.4	38.6	38.4	40.0
[関西]「収入の増え方」(原数値)	36.6	36.6	37.5	37.2	38.7	38.0	39.2	39.4	39.6	39.7	38.9	38.8	40.4
[関西]「雇用環境」(原数値)	41.4	44.2	43.7	45.2	47.1	47.5	46.3	46.8	45.3	45.6	43.7	44.2	44.5
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	34.4	36.4	36.8	37.6	39.6	39.6	39.4	39.8	39.5	41.1	39.7	39.8	40.3
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	38.4	39.3	39.5	40.9	41.7	41.5	41.4	41.7	40.3	41.7	40.6	41.5	42.6
[関西]大型小売店販売額(10億円)	335.1	419.0	334.9	289.7	327.0	310.9	324.8	315.4	337.8	315.4	297.9	316.4	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	1.6	0.7	0.6	1.1	-13.4	10.6	6.9	0.4	3.0	3.7	3.5	5.0	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,728.6	2,155.8	1,721.5	1,498.6	1,715.0	1,608.0	1,692.8	1,641.2	1,705.7	1,605.8	1,511.4	1,607.2	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	1.9	0.7	0.6	2.0	-12.3	9.5	6.3	0.6	3.2	2.6	2.6	4.0	UN
住宅建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12192	11625	9605	9002	10832	9823	10416	14330	10210	12490	11697	12872	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	-12.5	-21.1	-15.0	-6.2	-3.0	-20.9	3.2	19.2	1.7	-2.1	-0.1	19.0	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	78364	76416	67713	67552	69887	75617	71720	88118	78263	80255	77872	77153	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	-14.3	-14.7	-13.0	-3.1	0.7	0.4	5.8	16.3	7.4	8.8	2.6	-2.5	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	81.6	75.6	79.3	69.9	70.4	73.6	70.5	71.8	71.7	79.5	69.3	67.9	70.8
[関西]マンション契約率(原数値)	80.9	73.0	70.9	67.1	72.7	74.2	75.2	74.8	75.1	79.4	67.9	68.6	70.2
[全国]マンション契約率(季節調整値)	79.0	70.3	69.5	74.5	75.2	74.5	72.1	75.4	73.6	76.6	72.3	79.7	85.5
[全国]マンション契約率(原数値)	78.4	71.0	74.9	74.5	79.6	75.5	71.1	78.7	83.7	74.3	66.0	68.8	82.1
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	88.9	97.2	70.6	64.4	112.4	263.4	127.6	200.4	134.6	103.2	128.6	123.0	85.4
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	-20.0	-13.7	-25.1	-18.3	-14.9	40.9	-26.5	6.4	-18.2	-11.6	-13.4	-18.2	-3.9
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	843.7	894.4	670.8	712.2	1,275.5	1,836.1	1,129.4	1,556.4	1,463.2	1,113.2	1,246.1	1,253.0	872.0
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	-10.4	1.0	-13.7	2.3	-12.4	4.4	-14.0	-1.8	-10.1	-1.3	-10.9	-4.8	3.3
[関西]建設工事(総合、10億円)	587.8	609.6	600.8	584.1	573.7	467.9	467.5	487.0	500.3	507.4	521.0	540.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	3.2	2.4	1.4	-0.2	1.0	5.8	3.8	5.4	5.2	0.2	-2.4	-2.8	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,714.6	4,834.6	4,611.0	4,510.3	4,520.2	3,632.1	3,549.4	3,727.0	3,934.5	4,195.9	4,402.8	4,642.3	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	-1.4	-1.7	-1.3	-2.1	-0.7	3.4	3.3	2.5	5.2	4.1	1.6	2.6	UN
[関西]建設工事「公共工事」(10億円)	2,247.4	2,344.3	2,188.1	2,127.4	2,140.9	1,445.8	1,383.9	1,454.4	1,550.8	1,717.3	1,865.7	2,067.3	UN
[全国]建設工事「公共工事」(前年同月比)	3.5	3.7	3.6	0.2	0.8	4.9	6.4	3.1	4.4	0.8	-3.5	-1.5	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	101.2	102.1	110.5	105.9	106.5	102.1	100.9	102.6	102.8	100.4	101.6	104.1	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-4.5	0.9	8.2	-4.2	0.6	-4.1	-1.2	1.7	0.2	-2.3	1.2	1.3	UN
[関西]「出荷指数」(原数値、前年同月比)	-4.0	0.7	1.8	-0.7	0.3	-0.6	-4.8	0.0	-0.4	0.1	1.0	-4.5	UN
[関西]「在庫指数」(原数値、前年同月比)	4.5	1.5	0.8	2.2	2.8	1.9	0.3	0.9	0.5	-0.3	0.2	0.9	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	100.7	101.3	109.0	103.6	102.9	100.7	98.8	100.0	100.5	98.7	100.6	102.1	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	-4.4	0.6	7.6	-5.0	-0.7	-2.1	-1.9	1.2	0.5	-1.8	1.9	0.5	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	117.1	116.4	116.2	117.4	116.5	116.7	116.9	117.6	119.0	118.0	118.4	118.1	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.1	-0.6	-0.2	1.0	-0.8	0.2	0.2	0.6	1.2	-0.8	0.3	-0.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	97.9	98.1	102.1	98.9	98.1	99.3	97.2	98.3	97.5	96.3	97.4	98.8	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.6	0.2	4.1	-3.1	-0.8	1.2	-2.1	1.1	-0.8	-1.2	1.1	1.4	UN
[全国]「出荷指数」(原数値、前年同月比)	-4.8	-0.1	-2.1	-2.9	-2.3	0.2	-3.2	1.8	-0.4	0.6	-1.5	-0.8	UN
[全国]「在庫指数」(原数値、前年同月比)	6.6	6.2	5.6	7.0	6.2	6.6	3.9	4.0	-0.8	2.1	2.1	0.2	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	97.3	97.1	102.4	97.9	97.3	97.9	96.0	96.6	96.2	95.5	96.8	98.8	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	-0.7	-0.2	5.5	-4.4	-0.6	0.6	-1.9	0.6	-0.4	-0.7	1.4	2.1	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	112.4	112.3	111.8	113.0	113.4	113.8	112.9	114.6	113.7	114.0	113.6	111.4	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	1.1	-0.1	-0.4	1.1	0.4	0.4	-0.8	1.5	-0.8	0.3	-0.4	-1.9	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	2.0	2.4	0.8	0.5	0.0	-0.5	0.3	-1.5	0.7	0.7	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	1.8	2.6	0.6	0.3	0.2	-0.9	-0.1	-1.1	0.9	0.6	1.2	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	-0.2	0.9	0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	-2.5	0.9	0.4	UN	UN	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.8	3.7	4.0	3.8	3.3	3.5	3.8	4.1	4.3	4.4	4.7	3.5	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.6	3.4	4.2	4.0	3.6	3.5	3.7	3.9	4.3	4.4	4.5	3.6	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.5	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4	3.4	3.1	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.60	1.68	1.72	1.58	1.69	1.71	1.69	1.70	1.72	1.73	1.8	1.7	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.69	1.77	1.77	1.63	1.72	1.77	1.78	1.78	1.83	1.85	1.9	1.8	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.04	1.06	1.06	1.06	1.06	1.08	1.10	1.10	1.11	1.13	1.2	1.2	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.12	1.14	1.14	1.15	1.15	1.17	1.19	1.19	1.21	1.23	1.2	1.2	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	-22.2	50.2	-76.0	-37.6	201.1	114.9	107.8	134.0	7.8	65.0	127.5	100.8	-27.3
[関西]輸出(10億円)	1,322.6	1,500.7	1,304.8	1,242.4	1,459.2	1,382.7	1,264.3	1,383.4	1,374.6	1,299.4	1,386.8	1,398.2	1,236.9
[関西]輸出(前年同月比)	6.5	14.7	20.0	2.5	7.9	5.3	2.7	7.3	4.9	2.0	2.8	-1.9	-6.5
[関西]輸入(10億円)	1,344.8	1,450.5	1,380.8	1,280.0	1,258.1	1,267.8	1,156.6	1,249.4	1,366.8	1,234.4	1,259.4	1,297.3	1,264.2
[関西]輸入(前年同月比)	-0.3	4.7	-10.9	10.2	-14.1	-4.2	-8.1	-4.8	-0.5	0.4	-11.0	-8.8	-6.0

注：鉱工業生産 輸送機械工業は船舶・鉄道車両除く。

Release Calendar for DECR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
30-Nov	1-Dec 中国製造業 PMI (11月)	2-Dec	3-Dec	4-Dec 毎月勤労統計 (10月:速報値) 消費動向調査(11月)
7-Dec	8-Dec 中国輸出入 (11月:速報値) 景気ウォッチャー調査 (11月)	9-Dec 近畿鉱工業生産指数 (10月速報)	10-Dec 近畿貿易統計 (9月確報) 近畿貿易統計 (10月確速)	11-Dec
14-Dec 商業動態調査 (10月:確報値) 中国工業生産(11月) 中国固定資産投資 (11月) 中国消費小売総額 (11月) マンション契約率 (11月) 全国鉱工業生産指数 (10月:確報値)	15-Dec 公共工事前払保証額 統計(11月)	16-Dec	17-Dec 建設総合統計(10月) 全国貿易統計 (11月:速報)	18-Dec
21-Dec	22-Dec 近畿鉱工業生産指数 (10月確報)	23-Dec	24-Dec 毎月勤労統計 (10月:確報値)	25-Dec 求人倍率(11月) 完全失業率(11月) 新設住宅着工(11月) 全国貿易統計 (11月:確速) 近畿貿易統計 (11月速報)
28-Dec 全国鉱工業生産指数 (11月:速報値) 商業動態調査 (11月:速報値) 毎月勤労統計 (11月:速報値)	29-Dec	30-Dec	31-Dec	1-Jan